住まい・まちづくり市民セミナー

韓国における共同居住の動向 -なぜコ・ハウジングが注目されるのか

朴 庚 玉（忠北大学 教授）
KYOUNG-OK PARK/PROFESSOR/PH.D.
DEPT. OF HOUSING & INTERIOR DESIGN
CHUNGBUK NATIONAL UNIVERSITY

アパートが都市の主要な居住形態となっている韓国。これまで、大都市を中心に、分譲共同住宅である高層アパートが大量に供給されてきました。

近年、商品住宅として供給されるアパートに飽き足りない新たな居住ニーズが生まれています。その1つが、コ・ハウジングと総称される共同性を積極的に位置づける住まいです。

本講演では、どのような人々が、なぜ、コ・ハウジングを指向するのか、またそこで、どのような住まい、住まい方が行われているのかを、第一線で活躍されている研究者から紹介していただきます。韓国の最新動向を通して、住まいのあり方、また協働して住まう意味をともに考えたいと思います。

講演は日本語で行います。皆さまのご参加をお待ちしています。

日時
2017年2月14日（火）
午後6時半～8時半

場所
大阪駅前第ビル6階
大阪市立大学梅田サテライト106教室

主催：日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議
関西実行委員会：高田光雄（京都大学）・椎田智子（大阪教育大学）・檜谷美恵子（京都府立大学）他